

佐竹寺本堂重修碑

宮内大臣正三位勲一等一木喜徳郎篆額

茨城縣久慈郡佐竹村地勢高壇四望開豁西南隔水田控久慈川實為郡中之勝境焉有巨刹曰明音院佐竹寺傳曰華山帝寬和元年僧元密奉勅所創立所謂勅願所而坂東二十二番札所也治承元年佐竹昌義寄附永樂三百貫之地天文十二年罹兵燹伽藍塔什寶記錄悉歸烏有本尊觀世音佛像僅免其難矣寺舊在村中鶴池觀音山之嶺十五年移今地再築焉後德川家光寄進八石之地爾來物換星移寺門漸衰頽至明治之初最極荒敗矣住職檀徒有志等憂之屢請官以本寺保存之事內務省特使工學博士關野貞調查之明治三十九年指定為特別保護建造物於是住僧檀信徒等募集淨財得數百金起修理工事大正五年文部省下附補助金壹萬餘圓因更聘坂谷良之進柳田菊造擔當工事本縣知事岡田宇之助力石雄一郎監督焉翌年八月落成行入佛之式雖輪奐之美不能悉如往昔乎本堂一字稍得復舊觀矣其終始致力修繕之事者郡村長及住職檀徒總代保存委員等也頃日關係諸氏相議欲建設重修碑以傳諸不朽請文於余曾在本縣史蹟調查之任屢至本寺知其顛末則不肯辭以不文叙其梗概告之後昆広〔下云〕

大正十四年七月上浣 水戸 栗田勤譜文并書

茨城縣久慈郡佐竹村、地勢高壇、四望開豁、西南隔「水田」、控「久慈川」、實為「郡中之勝境」焉。有「巨刹」曰「明音院佐竹寺」。傳曰「華山帝寬和元年、僧元密奉勅所創立」。所謂勅願所、而坂東二十二番札所也。治承元年、佐竹昌義寄附永樂三百貫之地。天文十二年、罹「兵燹」、伽藍・堂塔・什寶・記錄悉歸「烏有」。本尊觀世音佛像僅免「其難」矣。寺舊在「村中鶴池觀音山之嶺」。十五年、移「今地」、再築焉。後德川家光寄進八石之地、爾來物換星移、寺門漸衰頽。至「明治之初」、最極「荒敗」矣。住職・檀徒・有志等憂之、屢請官以「本寺保存之事」。內務省特使工學博士關野貞調查之。明治三十九年、指定為「特別保護建造物」。於是住僧檀信徒等募集淨財、得「數百金」、起「修理工事」。大正五年、文部省下附補助金壹萬餘圓。因更聘坂谷良之進・柳田菊造・擔當工事。本縣知事岡田宇之助・力石雄一郎監督焉。翌年八月落成、行「入佛之式」。雖「輪奐之美」、不能「悉如往昔」乎。本堂一字稍得「復舊觀」矣。其終始致「力修繕之事」者、郡村長及住職・檀徒總代・保存委員等也。頃日、關係諸氏相議、欲建「設重修碑」以傳「諸不朽」、請「文於余」。余曾在「本縣史蹟調查之任」、屢至「本寺」、知「其顛末」、則不肯辭以「不文」、叙「其梗概」、告「之後昆」云。

茨城縣久慈郡佐竹村は、地勢高壇、四望開豁にして、西南には水田を隔て、久慈川を控へて、實に郡中の勝境為り。巨刹有りて明音院佐竹寺と曰ふ。傳に華山帝の寛和元年、僧元密勅を奉じて創立せし所なりと曰ふ。所謂勅願所にして坂東二十二番札所なり。治承元年、佐竹昌義永樂三百貫の地を寄附す。天文十二年、兵燹に罹り、伽藍・堂塔・什寶・記録悉く烏有に歸す。本尊の觀世音佛像僅に其の難を免かる。寺は舊村中鶴池觀音山の嶺に在り。十五年、今の地に移りて、再築す。後、徳川家光八石の地を寄進し、爾來、物換り星移りて、寺門漸く衰頽す。明治の初めに至り、最も荒敗を極む。住職・檀徒・有志等之を憂ひ、屢官に請ふに本寺の保存の事を以てす。内務省特使工學博士關野貞之を調査す。明治三十九年、指定して特別保護建造物と為す。是に於いて住僧・檀信徒等淨財を募集して、數百金を得て、修理工事を起こす。大正五年、文部省補助金壹萬餘圓を下附す。因つて更に坂谷良之進・柳田菊造を聘き、工事を擔當せしむ。本縣知事岡田宇之助・力石雄一郎監督す。翌年八月落成し、入佛の式を行ふ。輪奐の美ありと雖ども、悉く往昔に如くこと能はざるか。本堂の一宇は稍舊觀に復するを得たり。其の終始力を修繕の事に致せし者は、郡村長及び住職・檀徒總代・保存委員等なり。頃日、關係の諸氏相ひ議して、重修碑を建設して以て諸を不朽に傳へんと欲し、文を余に請ふ。余曾て本縣史蹟調査の任に在りて、屢々本寺に至り、其の顛末を知れば、則ち肯へて辞するに不文を以てせず、其の梗概を叙して、之を後昆に告げんと云ふ。